

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 人権教育・生徒指導課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【重点】不登校等を生まない学校づくりの推進	

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	小・中・高等学校における不登校の出現割合（児童生徒1千人当たり）の全国平均との差	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	+0.3	+0.2	+0.1	±0.0
現況値	+0.6人（2019年度）	実績値	-2.9	-5.1	-6.0	-6.7
目標値	±0.0人	達成率	※-%	※-%	※-%	※-%
備考		達成度	※5	※5	※5	※5

3 関連する事業名

- ・スクールカウンセラー配置事業
- ・思春期サポート事業
- ・スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業
- ・心の居場所推進プロジェクト
- ・小学校における長期欠席・不登校対策システム化推進事業

4 施策達成レベル

5.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

長期欠席・不登校対策に係る登校支援員や別室支援員の配置校において、不登校対策担当者を中心とした組織的な不登校対策が進むとともに、自立応援室の取組を普及することで、自立応援室設置校においては、長期欠席・不登校の児童生徒が教室復帰を果たすなどの成果が現れている。また、スクールカウンセラー等の専門家の配置及び積極的な活用、関係機関との連携した支援体制、教育相談体制や教職員研修の充実を図り、各校における不登校対策の優先順位を上げることで、1,000人当たりの不登校児童生徒数が全国平均を下回るとともに、中学校・高等学校では長期欠席・不登校児童生徒数がともに減少するなどの成果につながった。

6 今後の施策推進に向けての課題

不登校児童生徒数は、小学校において依然として増加していることから、各校の不登校対策担当者を中心とした組織的対応の徹底や、自立応援室の機能強化に一層努めることが必要である。
併せて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの優秀な人材や時間数の確保も課題である。

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 義務教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【重点】道徳教育を中心とした規範意識の確立	

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	47.0	48.0	49.0	50.0
現況値	44.7%（2019年度調査）	実績値	46.6	45.6	45.6	47.4
目標値	50.0%	達成率	99.1%	95%	93.1%	94.8%
備考		達成度	3	3	3	3

指標名	「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	41.0	44.0	47.0	50.0
現況値	36.5%（2019年度調査）	実績値	41.9	38.6	38.9	37.1
目標値	50.0%	達成率	102.2%	87.7%	82.8%	74.2%
備考		達成度	4	3	3	2

3 関連する事業名

・道徳教育総合支援事業

4 施策達成レベル

2.5	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

心の教育の充実を図るため、小・中学校において道徳教育の推進や充実に努める教員を対象とした研修会の開催や、中学校を対象とした郷土の偉人に関する授業パッケージを提供することなどにより、道徳教育の充実を図り、児童生徒の自立心や主体性、規範意識の向上、郷土愛の醸成を推進した。

6 今後の施策推進に向けての課題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指した好事例の普及を進め、道徳教育のさらなる充実を図る必要がある。また、学校における郷土教育を引き続き実施し、「夢育」の推進とともに地域とつながる力を育み、郷土岡山を愛する人材の育成に努める必要がある。

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 人権教育・生徒指導課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【重点】暴力行為等への対策の推進	

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	小・中・高等学校における暴力行為の発生割合（児童生徒1千人当たり）の全国平均との差	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	+0.2	+0.1	±0.0	±0.0
現況値	+0.4件（2019年度）	実績値	-1.0	-2.4	-2.4	-3.8
目標値	±0.0件	達成率	※-%	※-%	※-%	※-%
備考		達成度	※5	※5	※5	※5

3 関連する事業名

- ・スクールカウンセラー配置事業
- ・スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業
- ・学級崩壊等早期対応事業
- ・学級サポートチーム派遣事業
- ・悩みや不安を抱えた時の匿名相談アプリ活用事業

4 施策達成レベル

5.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

県のいじめ問題対策基本方針に基づく対策の徹底、スクールソーシャルワーカー等の専門家や関係機関と連携した支援体制及び教育相談体制の整備、教職員研修の充実、学級崩壊等早期対応事業等による早期からの継続的な学校支援、非行防止教室の開催など県警と連携した支援等に取り組むことで、暴力行為の発生割合は4年連続で全国平均を下回った。
--

6 今後の施策推進に向けての課題

暴力行為の発生割合は4年連続で全国平均を下回ったものの、発生件数は増加に転じている。落ち着いた環境づくりを推進していくため、全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の充実に努めるとともに、1人1台端末を活用した心の健康観察等を用いて問題行動の未然防止に努める。また、問題行動を課題が見え始める初期段階で確実に捉え、早期の解決に向けた取組を徹底できるよう、教職員によるチーム対応や関係機関等との緊密な連携などを徹底し、引き続き、警察OBと教員OBのペアによる集中指導員等による指導・支援を行うことで、学校における組織的対応の充実を図るだけでなく、改善の見られる学校の指導体制等の好事例を収集し、そのノウハウの普及を図る。

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	警察本部 生活安全部
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【重点】青少年の健全育成・非行防止対策の推進	

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	少年人口(10～19歳) 1千人あたりに占める刑法犯少年の割合(非行率)	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	2.6	2.5	2.4	2.2
現況値	2.9人(2019年)	実績値	2.2	2.4	2.8	3.1
目標値	2.2人	達成率	※118.2%	※104.2%	※85.7%	※71.0%
備考		達成度	4	4	3	2

3 関連する事業名

- ・「心と命の教育活動」の推進
- ・規範意識向上、再非行防止対策の推進

4 施策達成レベル

2.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

県警察に新設した健全育成対策室が中心となり、教育機関等と連携して問題行動等に関する情報収集、校内で発生した事案への迅速な対処、少年支援等を継続的に実施した結果、2024年中の非行率は3.1人と、全国順位では、2010年以来14年ぶりにワースト順位で2桁の「10位」となったが、万引きや自転車の占有離脱物横領といった「初発型非行」や、粗暴犯が増加するなど、刑法犯少年数が増加したため、目標を達成することはできなかった。
--

6 今後の施策推進に向けての課題

増加する刑法犯少年数に歯止めをかけるべく、従来の学校に加え、フリースクールや通信制高校にも間口を広げ、非行防止教室をはじめとする少年が自ら非行に走らない判断をするための取組のほか、「自転車鍵かけコンテスト」や「SNS広報用動画コンテスト」等、広く少年の規範意識向上に資する各種施策を推進していく。 また、SNSを介した犯罪被害防止等にかかる広報啓発活動や学校におけるいじめ事案への適切な対応等、少年保護対策も強化していく。
--

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 人権教育・生徒指導課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【重点】スマホ・ネット対策の推進	

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	スマートフォン等の利用に関して「家庭のルールがある」と回答した児童生徒の割合（小学生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	63.2	63.8	64.4	65.0
現況値	61.9%（2019年度）	実績値	64.9	57.8	55.9	57.8
目標値	65.0%	達成率	102.7%	90.6%	86.8%	88.9%
備考		達成度	4	3	3	3

指標名	スマートフォン等の利用に関して「家庭のルールがある」と回答した児童生徒の割合（中学生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	51.7	52.8	53.9	55.0
現況値	49.4%（2019年度）	実績値	52.0	51.6	46.0	49.4
目標値	55.0%	達成率	100.6%	97.7%	85.3%	89.8%
備考		達成度	4	3	3	3

3 関連する事業名

- ・青少年のスマホ・ネット利用のルールづくり促進事業
- ・スマホ・ネット問題総合対策推進事業
- ・「親育ち応援学習プログラム」の推進

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

家庭でのルールづくりについて、全校種で増加していることや、自分の決めごとがあると回答している児童生徒も多くおり、一定のルールづくりに基づいて利用している割合が高くなっている。ペアレンタルコントロールの利用は全校種で増加、フィルタリングを設定している割合についても小中で増加しており、利用時間の制限やトラブルの未然防止に対する意識が高まっている。PTA研修等において、スマホ等の利用に関する「家庭のルールづくり」の必要性を伝えるとともに、親育ち応援学習プログラム等を活用した研修実施を呼びかけ、スマホ等をテーマにしたプログラムの実施回数が増加した。

6 今後の施策推進に向けての課題

スマホの所持率が増加していることから、子どもを取り巻くスマホ・ネット問題の解決に向け、外部講師の活用や警察と連携した「非行防止教室」等も含め、情報モラル教育の更なる充実を図るとともに、スマホ・ネットの適切な利用について、児童生徒の主体的な取組を推進する必要がある。また、情報端末の学習への活用等の適正利用も進んでいることから、引き続き利用時間等を把握しながら、長時間利用の課題への取組を進めるとともに、生活リズムの乱れ等、健康面の影響についての啓発も推進する必要がある。「親育ち応援学習プログラム」については、作成から10年以上が経過しているものもあるため、リニューアルを行う必要がある。また、保護者への学習機会の提供について、市町村担当者や学校関係者に更に呼びかけていく必要がある。

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 義務教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【重点】より良い社会づくりに参画する人材の育成	

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」と回答した児童生徒の割合（小学校6年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	57.0	58.0	59.0	60.0
現況値	55.0%（2019年度調査）	実績値	52.0	78.9	84.1	82.4
目標値	60.0%	達成率	91.2%	※-%	※-%	※-%
備考	※「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に質問項目が変更されたため、評価対象外とする。	達成度	3	※-	※-	※-

指標名	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」と回答した児童生徒の割合（中学校3年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	42.5	45.0	47.5	50.0
現況値	38.9%（2019年度調査）	実績値	42.5	65.7	76.8	76.4
目標値	50.0%	達成率	100%	※-%	※-%	※-%
備考	※「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に質問項目が変更されたため、評価対象外とする。	達成度	4	※-	※-	※-

3 関連する事業名

- ・岡山型課題解決型学習（PBL）推進事業
- ・「君に届け！」夢への架け橋事業
- ・おかやま夢発信・交流事業

4 施策達成レベル

-	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
---	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

「岡山型PBL」の考え方や学習過程をまとめたガイドブックの周知・活用促進を図る研究校に対して指導・助言を行い、その成果について県内へ普及したり、岡山県に縁のある各方面で活躍する方や地域で貢献している方からの、小・中学生を対象とした夢への実現に向けたメッセージ動画を制作し、YouTubeチャンネル「夢ボイス」に動画を公開した。 また、小・中学生が地域を題材とする学習に取り組んだ成果を募集し、優れた取組を表彰する「おかやま学びたい賞」等、小・中学校が子どもの育成像を共有した上で地域と連携して、地域の課題解決や地域の特色を生かした魅力づくり等を行う取組を通して、児童生徒の住んでいる地域への愛着や地元貢献意識を育んだ。
--

6 今後の施策推進に向けての課題

児童生徒が地域に誇りと愛着を持ち、地域課題を自ら解決しようという当事者意識や実践力を身に付けられるよう、「岡山型PBL」の推進や「おかやま学びたい賞」の実施等、発達段階に応じて地域と連携した教育活動を進め、教員の指導力向上も図りながら、児童生徒が地域で活躍する場を創出する必要がある。
--

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 保健体育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【重点】子どもたちの体力の向上	

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合（男子・小学校5年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	72.0	73.0	74.0	75.0
現況値	70.7%（2019年度）	実績値	68.8	69.2	72.1	72.5
目標値	75.0%	達成率	95.6%	94.8%	97.4%	96.7%
備考		達成度	3	3	3	3

指標名	「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合（女子・小学校5年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	55.5	57.0	58.5	60.0
現況値	54.1%（2019年度）	実績値	51.6	53.1	53.5	54.7
目標値	60.0%	達成率	93%	93.2%	91.5%	91.2%
備考		達成度	3	3	3	3

指標名	「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合（男子・中学校2年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	64.2	64.5	64.8	65.0
現況値	63.6%（2019年度）	実績値	63.1	64.1	64.3	67.7
目標値	65.0%	達成率	98.3%	99.4%	99.2%	104.2%
備考		達成度	3	3	3	4

指標名	「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合（女子・中学校2年生）	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	49.5	49.7	49.9	50.0
現況値	49.1%（2019年度）	実績値	46.3	47.8	44.9	45.9
目標値	50.0%	達成率	93.5%	96.2%	90%	91.8%
備考		達成度	3	3	3	3

3 関連する事業名

- ・体力向上推進リーダー派遣事業
- ・小学校体育等充実プログラム
- ・「学校部活動方針」実践推進事業

4 施策達成レベル

3.3	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

全ての児童生徒が、達成感や成功体験を感じられるような、楽しく魅力的な体育授業の実施と、体育以外でも運動する習慣を身に付けさせるための取組等により、「運動やスポーツをすることが好き」と感じている児童生徒の割合は、中学校女子以外は令和4年度以降、3年連続で増加しており、令和6年度については中学校男子は目標値を達成することができている。
--

6 今後の施策推進に向けての課題

運動が苦手な児童生徒や、運動時間数が少ない児童生徒への対策が必要であり、体を動かす楽しさや喜びを味わい、運動を継続して実践することができる児童生徒が増加するよう、県教委の施策の推進等により体育・保健体育授業の一層の充実を図るとともに、児童自らが運動や身体を動かす遊びの実施状況を把握する取組等、運動習慣の定着、運動時間の確保につながる施策を引き続き推進していく必要がある。

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 保健体育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【推進】子どもたちの健康の保持増進	

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	「朝ごはんを食べることは大切だ」と回答した児童生徒の割合(小学生)	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	87.6	90.1	92.6	95.0
現況値	85.1% (2020年度)	実績値	86.2	87.4	88.1	88.1
目標値	95.0%	達成率	98.4%	97%	95.1%	92.7%
備考		達成度	3	3	3	3

指標名	「朝ごはんを食べることは大切だ」と回答した児童生徒の割合(中学生)	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	88.4	90.6	92.8	95.0
現況値	86.2% (2020年度)	実績値	87.0	86.7	86.6	86.1
目標値	95.0%	達成率	98.4%	95.7%	93.3%	90.6%
備考		達成度	3	3	3	3

3 関連する事業名

- ・学校保健推進体制支援事業
- ・がんの教育等推進事業

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

子どもたちが健康な生活を送るために必要な力を身につけることができるよう、がんや性、薬物乱用に関する問題などの様々な児童生徒の現代的健康課題等への適切な対応を図るため、関係機関等との協議会の開催などにより教職員の知識・理解を深め、学校保健活動の充実を図る取組を実施した。

また、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、研修会の開催などにより栄養教諭の資質能力の向上を図るとともに、学校、家庭、地域関係団体等と連携・協働し、食に関する指導の充実を図る取組を実施してきたが、目標としている「朝ごはんを食べることは大切だ」と回答した小学生の割合は、現況値(2020)を上回ることができたものの目標値には届かなかった。

6 今後の施策推進に向けての課題

学校における健康教育を計画的に進め、学校、家庭、地域の連携を図ることで、子どもたちが望ましい生活習慣を身につけ、生涯にわたり、たくましく生きるための健康づくりを推進することとしているが、児童の11.9%、生徒の13.9%が「朝ごはんを大切だ」と認識できておらず、成長期における食事の重要性や、成長や活動に必要なエネルギーや栄養素について十分に理解させる必要がある。

また、児童生徒の食習慣の改善には、家庭の協力が不可欠であり、家庭への効果的な啓発が必要であることや、栄養教諭による専門性を生かした指導が有効であること等を踏まえ、部活動を通じた食育の実践等の成果を県内に普及する必要がある。

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 人権教育・生徒指導課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【推進】人権教育の推進	

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	地域において人権教育・啓発を推進するために養成する指導者の数(累計)	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	50	75	100	125
現況値	532人(2019年度)	実績値	50	79	105	124
目標値	657人	達成率	100%	105.3%	105%	99.2%
備考	2024年度: 656人(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	4	4	4	3

3 関連する事業名

- ・人権教育指導者養成講座
- ・PTA指導者人権教育研修会

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

学校教育においては、各種教職員研修会、市町村人権教育担当者会及び人権学習充実拠点校事業等の実施を通じて、様々な人権をめぐる課題等に対する教職員等の知的理解を深化させる取組を推進した。また、日々の指導に生かせるよう、人権教育の指導内容・方法等について作成した指導資料を各校に配付し、研修動画をHPに掲載した。 社会教育においては、住民が様々な人権問題についての知的理解を深められるよう、各種情報の提供や連絡調整、視聴覚教材の整備等を行った。また、各人権課題の講師を招聘した研修講座を開催し、地域における指導者の養成等により、市町村の取組を支援した。
--

6 今後の施策推進に向けての課題

学校教育については、人権感覚の育成を図る取組は推進されているが、人権課題を明確にした人権学習の取組の増加には至っていない。人権学習の取組を通して、教職員や児童生徒の人権意識が高まるように、指導内容・方法の充実・改善を図る必要がある。 社会教育については、住民が日常生活の中に生かせる人権感覚と実践的な態度を身につけることを目指し、参加体験型の研修を実施する取組をさらに進める必要がある。指標の進捗については、目標値をわずかに下回ったが、養成講座の申込み数としては例年どおりであったことから、引き続き関係各所に幅広く周知するとともに、申込み後も継続して参加していけるように、内容や運営について関係課と協議していく。

2025年度 施策評価シート(2024年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	子ども・福祉部 子ども家庭課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	徳育・体育推進プログラム	
施策名	【推進】困難を有する子ども・若者への支援	

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	子ども・若者支援地域協議会など困難を有する子ども・若者を支援する連携体制を整備している市町村数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	1	3	5	7
現況値	3市町(2020年度)	実績値	1	1	1	1
目標値	10市町	達成率	100%	33.3%	20%	14.3%
備考	2024年度: 4市町(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	4	1	1	1

3 関連する事業名

・おかやま子ども・若者育成支援事業

4 施策達成レベル

1.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

協議会設置に向け、県子ども・若者支援地域協議会実務者会議・研修会において情報交換や助言等の支援を行った。また、協議会未設置市町村を訪問し、子ども・若者を支援する体制の実情や設置に向けた課題等についてヒアリングを行った。

6 今後の施策推進に向けての課題

様々な困難を有する子ども・若者の支援の充実には、身近な市町村において「子ども・若者支援地域協議会」のような支援ネットワークにより、重層的かつ継続的な支援を行うことが有効であることから、情報交換会の開催や市町村への訪問などにより、各市町村に対する情報共有や助言を継続的に行い、市町村の実情に沿った体制整備が進むよう支援していく必要がある。
--